

# 高 知 県

(高知県環境農業推進課 中平知芳)

## 1. 新病害虫の発生

### (1) サツマイモ基腐病(令和2年12月10日：特殊報)

令和2年10月、県東部のサツマイモ栽培ほ場において地際部の茎及び塊根が黒色～暗褐色に変色する症状が確認された。採取した株から *Phomopsis* 属菌が分離されたことから農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、サツマイモ基腐病であることが判明した。

本病は、平成30年11月に国内で初めて沖縄県で発生が確認され、その後、鹿児島県、宮崎県、福岡県、熊本県および長崎県で確認されている。

### (2) タバコノミハムシ(令和2年12月24日：特殊報)

令和2年12月、県東部の施設ナスほ場において、葉を食害するハムシ類の成虫が確認された。採集した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本県ではこれまで未確認のタバコノミハムシであることが判明した。

本種は、中央～北アメリカを原産とする外来種である。国内では、平成23年に群馬県において初めて発生が確認され、その後、関東・東海地方を中心に分布拡大し、令和元年以降、奈良県、滋賀県、大阪府、岡山県、広島県など近畿、中国地方の府県でも発生が確認され、これまでに19府県から発生の報告がある。

### (3) フタテンミドリヒメヨコバイ(令和3年6月8日：特殊報)

令和3年5月、県東部の施設ナスほ場において、葉が黄化する症状が確認され、被害上にて翅末端に一对の黒点があるヨコバイが確認された。採集した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本県ではこれまで未確認のフタテンミドリヒメヨコバイであることが判明した。

国外では、台湾、中国、インドなどに分布し、ナス、トマト、ジャガイモのほかオクラ、ワタ、ハイビスカスの害虫とされている。国内では、沖縄県のオクラで発生が確認されているほか、平成17年に東京都のナス、オクラ、ハイビスカスで本種による被害が報告されている。また、令和2年には熊本

県のオクラでの発生の報告がある。

## 2. 水稻

### (1) 葉いもち

早期稲、普通期稲とも作期を通じて発生が見られた。7月の発生面積は早期稲、普通期稲でそれぞれ、平年の3.8倍、1.9倍と多く、発病程度が高いほ場も見られた。

### (2) 穂いもち

発生面積は、早期稲では7月に平年の約3.1倍、普通期稲では9月に約1.4倍と多かった。普通期稲では、8月3日に注意報を発令した。

### (3) 紋枯病

早期稲での発生は7月とやや遅く、普通期稲では平年並の7月以降に発生が見られた。早期稲では平年に比べ少発生、普通期稲では平年並の発生であり、一部発病程度の高いほ場も見られたが、実害はほとんど見られなかった。

### (4) ごま葉枯病

早期稲では7月、普通期稲では7～9月に発生が見られた。早期稲では平年並、普通期稲では平年に比べ多発生であった。普通期稲の一部で穂枯れが見られた。

### (5) 稲こうじ病

早期稲での発生は見られなかった。普通期稲では8月から常発地である山間部に加え平野部でも発生が見られた。

### (6) ツマグロヨコバイ

早期稲、普通期稲とも作期を通じて発生が見られた。早期稲では平年に比べ多発生であったが、普通期稲では少発生であった。

### (7) セジロウンカ

早期稲では5月、普通期稲では6月から発生が見られた。早期稲は平年に比べやや多、普通期稲では平年並の発生であった。

### (8) トビイロウンカ

早期稲での発生は7月に平年の8.8倍と多かったが、発生程度の高い圃場は見られなかった。普通期稲では少発生であった。

### (9) コブノメイガ

早期稲、普通期稲ともに7月以降に発生が見ら

れたが、いずれも少発生であった。

#### (10) フタオビコヤガ

早期稲、普通期稲ともに作期を通して少発生であった。

#### (11) イネミズゾウムシ

早期稲、普通期稲とも栽培初期を中心に発生が見られたが、葉の食害が見られたのみであった。

#### (12) 斑点米カメムシ類

早期稲、普通期稲ともに平年並の発生ではあったが、発生面積、発生程度ともに高水準な状況であり、技術情報により注意を促した。主な発生種はミナミアオカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシであり、近年、イネカメムシが優占している圃場が目立つようになった。

#### (13) アザミウマ類（早期稲のみ）

6月中旬のすくい取り調査(捕虫網10回振り)では、県全体では平年並であったが、県東部、中西部でそれぞれ平年に比べやや多、多であったことから、技術情報により注意を促した。

### 3. 果樹（カンキツ類）

#### (1) そうか病

作期を通じて発生が見られたが、平年並の発生であった。

#### (2) 黒点病

作期を通じて平年並の発生であった。

#### (3) かいよう病

作期を通じて発生が見られたが、平年に比べ少発生であった。

#### (4) ミカンハダニ

作期を通じて発生が見られ、平年に比べ多発生であった。

#### (5) アブラムシ類

5～9月に発生が見られ、平年に比べ多発生であった。

#### (6) カメムシ類

フェロモントラップへの誘殺数は8月下旬～9月上旬にかけて増加し、圃場においても8、9月に発生が見られた。

### 4. 野菜

#### (1) 冬春キュウリ・うどんこ病

栽培初・中期には平年並からやや少ない発生で推移したが、栽培後期には増加し平年に比べ多発生となった。

#### (2) 冬春キュウリ・べと病

作期を通じて平年並からやや多い発生で推移した。

#### (3) 冬春キュウリ・つる枯病

12～4月に発生が見られた。ハウス内温度が上昇する2月以降、発生面積が増加したが、発病程度の低い圃場がほとんどであった。

#### (4) 冬春キュウリ・黄化えそ病

作期を通じて概ね平年並の発生で推移した。

#### (5) 冬春キュウリ・ミナミキイロアザミウマ

作期を通じて平年並の発生であった。

#### (6) 冬春キュウリ・タバココナジラミ

作期を通じて平年並からやや多い発生であった。

#### (7) 冬春キュウリ・ハスモンヨトウ

1月に発生が見られた。葉への食害が散見される程度であり、果実被害はほとんど見られない。

#### (8) 冬春ナス・青枯病

栽培初期から発生が認められ、漸増傾向で推移したが、作期を通じて平年に比べやや少ない発生であった。

#### (9) 冬春ナス・灰色かび病

1月以降発生が見られ、平年並からやや多めの発生であった。

#### (10) 冬春ナス・すすかび病

11月以降発生が見られ、栽培後期にかけて増加したが、概ね平年並の発生であった。

#### (11) 冬春ナス・黒枯病

栽培初・中期は平年並以下の発生であったが、栽培後期には発生がやや増加した。

#### (12) 冬春ナス・うどんこ病

作期を通じて平年並から少なめの発生で推移した。

#### (13) 冬春ナス・ハスモンヨトウ

作期を通じて発生が見られ、特に栽培初期の発生量が多かった。

#### (14) 冬春ナス・ミナミキイロアザミウマ

作期を通じて平年並以下の発生であった。

#### (15) 冬春ナス・アブラムシ類

作期を通じて発生が見られ、平年に比べやや多い発生であった。

#### (16) 冬春ナス・タバココナジラミ

作期を通じて概ね平年並以下の発生で推移した。

#### (17) 冬春ナス・ハダニ類

作期を通じて発生が見られたが、平年並以下の発生であった。

**(18) 冬春ナス・ホコリダニ類**

栽培初期および後期に発生が目立ったが、概ね平年並の発生であった。

**(19) 冬春ピーマン・モザイク病**

3月にPVYの発生がわずかに見られたが、程度は低かった。

**(20) 冬春ピーマン・うどんこ病**

作期を通じて平年並の発生で推移した。

**(21) 冬春ピーマン・斑点病**

4月に平年に比べやや多い発生であったのを除き、概ね平年並以下の発生であった。

**(22) 冬春ピーマン・黒枯病**

栽培後期に発生が目立ったが、概ね平年並の発生で推移した。

**(23) 冬春ピーマン・ハスモンヨトウ**

作期を通じて概ね平年並の発生で推移した。

**(24) 冬春ピーマン・ミナミキイロアザミウマ**

4月に平年に比べ多い発生であったことを除き、概ね平年並以下の発生であった。

**(25) 冬春ピーマン・ヒラズハナアザミウマ**

10月に平年に比べやや多い発生であったことを

除き、概ね平年並の発生で推移した。

**(26) 冬春ピーマン・アブラムシ類**

作期を通じて概ね平年並の発生で推移した。

**(27) 冬春ピーマン・タバココナジラミ**

作期を通じて概ね平年並の発生で推移した。

**(28) 冬春トマト・灰色かび病**

3月以降発生が見られた。

**(29) 冬春トマト・疫病**

発生は見られなかった。

**(30) 冬春トマト・葉かび病**

作期を通じて発生が見られ、平年に比べ多い発生で推移した。

**(31) 冬春トマト・すすかび病**

作期を通じて発生が見られ、概ね平年に比べやや多い発生で推移した。

**(32) 冬春トマト・黄化葉巻病**

栽培初期に発生が見られたが、発生程度は低かった。

**(33) 冬春トマト・タバココナジラミ**

概ね栽培期間を通じて発生が見られ、栽培後期には増加し、平年に比べ多発生となったが、発生程度は低かった。

**(34) 冬春トマト・ハモグリバエ類**

発生は見られなかった。

令和3年度 主要病害虫発生状況(高知県)

作物名・作付け面積 (ha) 病害虫名	発生面積 (ha)	摘要	作物名・作付け面積 (ha) 病害虫名	発生面積 (ha)	摘要
<b>早期水稲 (6,360)</b>			<b>施設キュウリ (115)</b>		
いもち病 (葉いもち)	1,919	多	うどんこ病	97	多
いもち病 (穂いもち)	666	多	べと病	105	やや多
紋枯病	68	少	つる枯病	55	並
ごま葉枯病	491	並	黄化えそ病	70	並
稲こうじ病	0	少	ミナミキイロアザミウマ	97	並
ツマグロヨコバイ	809	多	タバココナジラミ	60	並
セジロウンカ	600	やや多	ハスモンヨトウ	2	少
トビイロウンカ	16	多			
コブノメイガ	15	少	<b>施設ナス (254)</b>		
フタオビコヤガ	2	少	青枯病	24	やや少
イネミズゾウムシ	2,106	並	灰色かび病	20	やや多
斑点米カメムシ類	5,054	並	すすかび病	191	並
アザミウマ類	2,803	並	黒枯病	181	並
			うどんこ病	42	少
<b>普通期水稲 (4,940)</b>			ハスモンヨトウ	125	多
いもち病 (葉いもち)	2,914	多	ミナミキイロアザミウマ	69	少
いもち病 (穂いもち)	1,096	やや多	アブラムシ類	21	やや多
紋枯病	244	並	タバココナジラミ	233	並
ごま葉枯病	3,892	やや多	ハダニ類	20	並
稲こうじ病	3,040	多	ホコリダニ類	32	並
ツマグロヨコバイ	117	少			
セジロウンカ	1,006	並	<b>施設ピーマン (シシトウ含む) (86)</b>		
トビイロウンカ	217	少	モザイク病	0	少
コブノメイガ	29	少	うどんこ病	65	並
フタオビコヤガ	14	少	斑点病	56	並
イネミズゾウムシ	453	少	黒枯病	31	多
斑点米カメムシ類	4,072	並	ハスモンヨトウ	30	並
			ミナミキイロアザミウマ	46	並
<b>カンキツ (1,704)</b>			ヒラズハナアザミウマ	63	やや多
そうか病	242	並	アブラムシ類	29	並
黒点病	1,496	並	タバココナジラミ	77	並
かいよう病	134	少			
ミカンハダニ	1,417	多	<b>施設トマト (34)</b>		
アブラムシ類	553	多	灰色かび病	11	並
カメムシ類	22	少	葉かび病	19	多
			すすかび病	15	やや多
			黄化葉巻病	2	少
			タバココナジラミ	15	多